

将来像はそのままだ、次の5年へー



「まえ、後期基本計画の策定時に人口ビジョンの時点修正を行い、基本構想の目標人口を変更しました。これにより、令和12年の目標人口は、64,000人から62,500人へ変更されています。

ただ、これは将来を小さく見るための変更ではありません。人口ビジョンでは、真栄里土地地区画整理事業による新たな住宅地整備などによって、市外からの転入者の増加を反映することで、いまの現実を見つめ、着実に届く目標へと変えています。また、変更前は令和12年に達成する見込みであった64,000人という目標は、真栄里地区区画整理事業などの進捗を見据え、令和22年に達成することを目指します。

市民・子どもたちの声を計画へ

この計画は行政だけでつくりあげたものではありません。市民意識調査や小中学生へのアンケート、オンラインでの意見募集、パブリックコメントなど、多くの声を集めながらまとめられました。後期基本計画では、前期基本計画と同じ6つの「目指すまちの姿」を掲げています。子育てや学び、健康や福祉、安心して暮らせる地域、住みやすいまち、働く場の元気、そして人と人とのつながりまで。

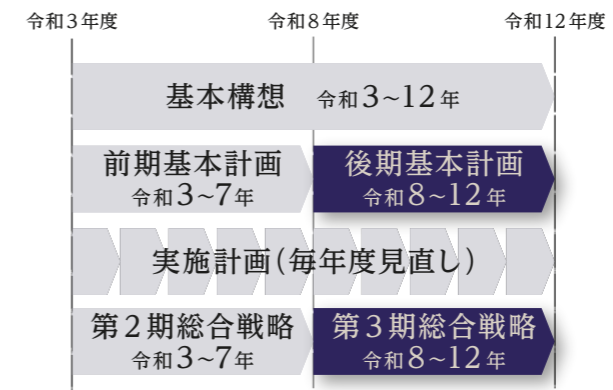
これまで市民とともに大切にしてきた想いを土台に、現実と向き合い、次の糸満市をみんなで見据えていく。ここから新たな5年のスタートです。

01 引き継ぐもの。見直したものの。

前期から引き継ぐもの

第5次糸満市総合計画は、令和3年度から令和12年度までの10年を見通した、まちづくりの指針です。総合計画を構成する基本計画は5年ごとに見直すこととしており、令和8年度からは、後半の5年を担う後期基本計画が新たにスタート。あわせて、第3期糸満市創生総合戦略も策定され、人口減少や地域の活力維持などの課題に向き合いながら、これからの糸満市をどう支えていくか

総合計画・総合戦略の期間



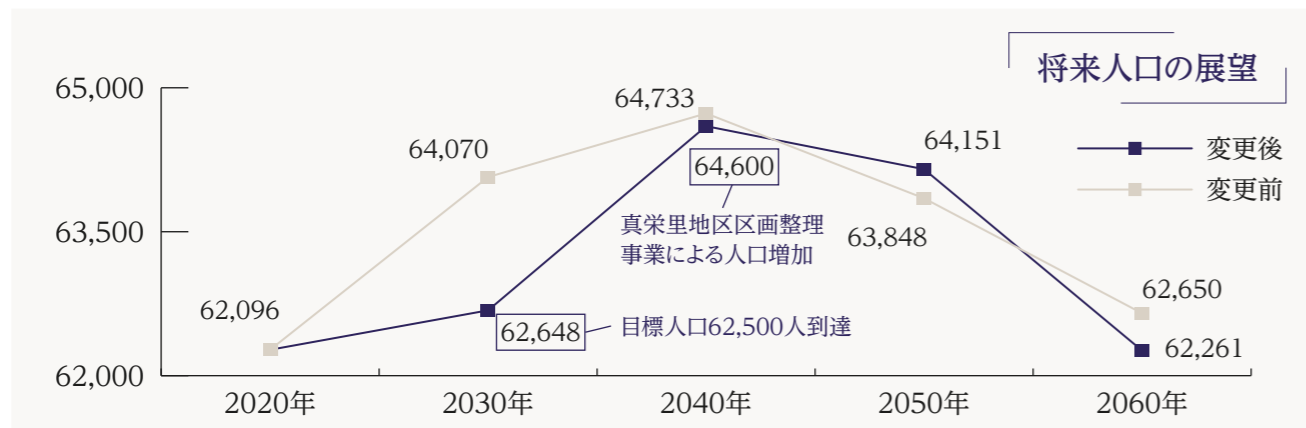
が改めて示されています。しかし、目指すまちの将来像は変わりません。「つながりを深めチャレンジするまち糸満市」。人と人、地域と地域、市民と行政がつながり、支え合いながら未来をつくっていく。その想いは、後期基本計画にも引き継がれています。

課題を踏まえて見直したものの

一方で、まちを取り巻く現実はこの数年で大きく変わりました。人口減少や少子高齢化、長引く物価高、厳しさを増す財政状況、市職員の人員不足、そして公施設の老朽化。このような変化を踏

目標人口を、届く目標へ

Turning target population into achievable goals



引き継ぐもの。見直したものの。

Things to be carried on. Things to be re-examined.

引き継ぐもの

- 将来像 —
つながりを深めチャレンジするまち糸満市
- 目指すまちの姿 —
6つの目指すまちの姿は継続
- 計画の考え方 —
市民とともに進める計画

見直したもの

- 目標人口 —
後期基本計画策定に合わせて変更
- 人口ビジョン —
目標人口を62,500人に変更
- 背景認識 —
近年の新たな課題を反映